第二十八回市政会議
婦人の立場で市政に一言

市政の学習を深めようと、恒例の市政会議が二月二十八日に市役所で開かれ、婦人の目から見た疑問や意見を市の執行部に投げかけていました。

婦人の社会参加を進めようと婦人会結成以来毎年行われている市政会議も今年で二十八回目。今年も執行部からは市長、両助役をはじめ、関係各課長らが出席して各地区婦人会の代表者約五十人と活発に意見交換をしていました。

開会に当って市長は「指導的かつ積極的な意見を展開してください。南国市は市制三十周年を迎えたが、その間市政は停滞を繰り返してきました。現在、財政上の問題があるなかでも教育施設の充実には力を入れており、また企業誘致などの問題も抱えています。自分たちの手で南国市をよくしなければならないということを肝に命じてほしい」とあいさつしました。続いて代表者が事前にとったアンケートに基づいて質問をしていましたが、一家の台所を担う主婦の立場から鋭い意見も飛び出していました。

主な内容は次のとおりです。

市民の声を取り入れた広報に

◪お知らせだけの広報になっているようだが、議員の質疑や市民の声も載せてほしい。また、早く配布するよう努力を。

□日ごろからただお知らせに終わる広報であってはならないことはじゅうぶんに考えている。広報の使命は伝えるだけでなく、皆さんの意見を聞き、それを広報、ひいては市政に生かしていくことであるので、今後も婦人の皆さんや若い方の声を取り入れた広報にしていきたい。

企業誘致で第二次産業は発展

◪産業の発展が急がれるが、企業誘致はどうなっているのか。

比江木材団地

また、ふるさと創生基金の使途は。

□企業誘致については、都市計画法などで規制があるので、特定地域を選んで進めている。工業団地の計画もあり、第二次産業については発展している。

ふるさと創生基金については、ふるさとづくり基金条例の設置を三月議会に諮り、基金として積み立てて、市民の皆さんの意見もいただきながら趣旨にそって取り組んでいきたい。

環境影響調査に何とか理解を

◪廃棄物最終処分場建設について、もう少し事前に地元と連絡がとれなかったのか。計画はどうなっているのか。

□適地選定の際に地元に話がなかったということであるが、これまでの長い選定経過を踏まえてのことであり、何とか理解していただきたい。これから環境調査などもして決定することになる。現在は調査をさせていただきたいとお願いしているが、いろいろな問題があってまだ説明会の開催に至らないところがある。調査をしてみないとわからないので、全力を上げてお願いしている。

ちり袋制は継続したい

◪ちり袋が二十円に上がるが、ちり袋でなくてもよいということは考えられないか。

□ちり袋については議会で議決されれば四月から二十円になる。県下の状況を見ても袋の費用は袋代と処理費を含めたものとなっている。処理費は一袋当り七十八円であるので十円程度利用者に負担していただき、それで行政効果を上げることができればと考えている。ちり袋制については好ましいものと考えているので廃止は考えていない。

学校、家庭、地域が一体となって指導を

◪自転車に乗る小中学生のなかに、空き缶の投げ捨てや無燈火、二人乗り、傘さし運転が多く見られるので、家庭と一体となった指導を。

□学校教育の責任もあろうかと思うが、大部分が家庭におけるしつけがじゅうぶんでないことに起因していると思う。校外でもあり先生の目もじゅうぶんに届かない。地域において指導に当っていただくことが必要ではないかと考えている。そのような場に直面したらその場で皆さん方が子供にご指導いただきたい。学校と家庭、地域が一体となって取り組まなければ解決しない問題ではないかと思う。返事、あいさつができない、善悪のけじめがつかず、自己中心的である、などが指摘されるが、これは今の子供が悪いのではなく、こういう子供に育てた大人、親の責任である。こういうことをよく自覚しておかないとこうした問題点は解消されない。教育の目的は、学校と家庭の二人三脚で心身ともに健康で立派な人間を作り上げることになる。家庭は基本的な生活様式をしつけ、人間としての生き方を学ばせるところであると考えて実行していただきたい。

その他の意見、質問は次のとおりです。

○市役所の駐車場は満杯なので、マイカー通勤の規制や関係ない車のチェック、係員を置くなどの方法でもう少し来客用のスペースを確保してもらいたい。

○交通安全の日の職員の街頭指導や、後免町商店街の制限速度順守、違法駐車の巡回指導などもお願いしたい。

○国保税の納入回数を増やしてほしい。

○し尿のくみ取り料金をもう少し安くできないか。

○市道敷きとして所有者に固定資産税をかけるのは不都合ではないか。

○「まほろばの南国市」にふさわしい観光案内設備を、また歴史的なものとその他のもの抱き合わせた相乗効果の上がる観光ルート付けを考えていただきたい。県でも土佐日記旅興しの事業が予算化されているので、県と市が呼応して南国市をPRする絶好の機会ではないか。

○地域代表的感覚を捨て、南国の議員ということを自覚してほしい。出身地のことだけを考えず、全体のバランスを考えてもらいたい。

議会各常任委員長の講評

二十八回を迎えた市政会議に心から敬意を表する。

ずっと前から同じような身近な質問がされており、若干上滑りでないか。質問内容を半分程度にしぼり、何回も突っ込んだ質問をしたらと思う。また、空港拡張問題などもっと南国市に関係のある大きな質問をされてはどうか。消費税についても一言も質問がなかったが、時事問題も提起されたらよいのではないかと思う。

市政会議に参加していない地区もあると聞くが、全市的な活動に発展するよう祈る。

後免町まちづくりを熱心に話し合う
後免地区市政懇談会

後免地区市政懇談会が、二月二十八日、後免町公民館で開かれました。会には、市長をはじめ市の執行部から十一人、地元からは約四十人が出席して、二時間にわたり意見を交換し合いました。

会では、まず市長から市政の現状を「財政再建は十数年以来の大きな懸案で、いまだに達成はしていませんが、借金は半分になっています。また、借金がなくならなければ健全な行政ができないということは一概に言えず、借金を少々抱えて事業を増やし、市民のニーズに応えていく方向で市政を執行させていただいています」と報告。また今後の目標として「一次・二次・三次産業のバランスのとれた田園工業都市として、住みよい生活環境の町にしたい。」と述べました。

その後、地元からの要望として、後免野田小学校屋内運動場の建設や市制三十周年事業への参加等の意見が出され、執行部はそれぞれ希望に沿った形で進めていきたいと答弁していました。

まちづくりを真剣に検討

続いて、この日の最重要議案である後免町まちづくりについて討議。まず執行部から、後免町再開発に向けての現在までの進行状況が報告され、まちづくりに関するさまざまな問題が検討されました。市民のまちづくりへの関心は高く、また文化会館の誘致など次々に出される質問に、執行部も熱心に説明していました。

最後に市長は「伝統とは誇りとなるもので、誇りと自信を持って暮らしていただきたい。そうでなければ都市計画はできない。」と述べ、まちづくりへの協力を呼びかけました。